『作家たちのフランス革命』

緒言　三浦　信孝

第一章　スタール夫人はなぜ、ナポレオンの怒りを買ったのか
——スタール夫人『デルフィーヌ』『コリンヌ』　村田　京子

第二章　社会革命の一画期、巨人の時代としてのフランス革命
——シャトーブリアン『墓の彼方からの回想』　小野　潮

第三章　光と影のあざやかな演出
——バルザック『暗黒事件』　柏木　隆雄

第四章　今こそ、人道主義
——ヴィクトール・ユゴー『九十三年』　西永　良成

第五章　ドレフュスは作家の反革命小説か？
——アナトール・フランス『神々は渇く』　三浦　信孝

第六章　フランス革命の一大叙事詩劇
——ロマン・ロラン『革命劇』　エリック・アヴォカ

第七章　マリー＝アントワネット像と歴史小説の魅力
——シャンタル・トマ『王妃に別れをつげて』　関谷　一彦

終章　「フランス革命と文学」瞥見　エリック・アヴォカ